

SOS ニュース

ウソつきは泥棒の始まり？

子どもの時に、ウソをつき両親に厳しく叱られたという経験のある方は、たくさんいることと思います。

「ウソつきは泥棒の始まり」ウソをつくことは、泥棒になる第一歩、ウソをつくことは、いけないことと親から教えられました。

私が子どもだった頃、今でも鮮明に覚えている出来事があります。

その日のおやつは、母手づくりの、ドーナツ。ドーナツを食べ終えた弟は、手を滑らせ小皿を落としました。小皿は割れました。

その時は、弟は、

「あのネ、今、猫ちゃんが来て、お皿のドーナツを取って食べたの。お皿が高い所にあつたので、猫ちゃんの手につかかち落ちちゃった」と説明しました。

母は僕に厳しい人でしたが、この時ばかりはおかしそうに笑いころげました。あきらかに弟はウソをついているのに、弟のウソにだまされ、彼のかわいい智慧の冒険と一緒に楽しんだのです。

一昔前の家庭（大家族）には、人生を明るく、面白くするためには、ウソを欠くべからざるものという、おおらかな考え、おおらかな家風が流れていたように思います。

- かぐわしく、流るる風の こち良さ
家風という風 光りを放つ

民俗学者の柳田国男は「ウソ」に対して、「子供がうっかりウソをついた場合、すぐ叱られることは有害である。そうかと言って信じた顔をするのもよくない。また興ざめた心持を示すのもどうかと思う。やはり自分の自然の感情のままに、存分に笑うのがよいかと考えられる。そうすると彼等は次第に人を楽しませる愉快を感じて、末々明るい元気のよい、また想像力の豊かな文章家になるかも知れぬからである。」とウソを肯定的に語っています。

私も親になり、子どもにウソをついてはいけませんと言ってきました。

ところが私は、息子のウソに長い間、気がつきませんでした。

わが家の近くには、交通量の激しい国道が走っています。危険な国道を越えて遊びに行く時には、自転車は使わず歩いて行くという約束をしていました。約束を守っているか、毎朝、確認をして私は出かけました。

ある日、用事があり、国道の横断歩道を渡ろうとしました。その時、大勢の子ども達が自転車で走り抜けようとしています。よく見ると息子もその中の一人。横断歩道の真ん中で目が合いましたが、注意するわけにもいかず、見て見ぬふりをして通り過ぎました。

慣れた様子で自転車を走らせていましたので、国道を横断するのは、今日が初めてではないことは一目瞭然です。私との約束は、当の昔に破っていたのです。私にずっとウソをついていたのです。

私は今日、息子に何て言おう。「ウソつきは泥棒の始まり」と怒鳴ろうか……。

息子は帰宅するなり「お母さん、お母さんの言うことを聞いていたら、友達はいなくなるよ。友達は皆、自転車で乗り国道を越えて遊びに行く。僕一人、歩いていたら仲間外れにされちゃう。お母さんの言うことはおかしい！」

息子の気迫ある主張に気圧され、私は何も返す言葉はありませんでした。

ウソにも二種類あります。人生を面白く、人間性を豊にするためのウソと、自分の利益を守るためのウソ。前者は、寛い心をもち笑ってすませますが、後者は、厳しく罰しなければいけません。

人生は、迷いや、苦しみや、悲しみの連続。どちらの道を選ぶか、選択の連続です。

SOS総合相談グループは、その方の人生に寄り添い、その方に合った道を共に考えてまいります。

○人生は 晴れのちくもり 一時あめ

どしゃぶりの日も 笑顔で行こう

平成30年3月22日

家庭・教育部会

色井 静代

*無断転写禁止